

「学生ボランティア団体活動レポート」

大 学 名	明星大学
団 体 名	おもいやりサークル SMILY

タイトル：子どもに「居場所」を提供するサークルを目指して

私達スマイリーは、将来教員になりたい人や子どもが好きな人が集まり、現在の教育学部教育学科の学生を中心として 2006 年に結成されたボランティア団体です。教育学部を中心としながらも多くの学部の学生が混在し、現在総勢 300 名以上の学生が所属しております。私たちは、日頃の学校生活や家庭での過ごし方の中でも、制限されることが多い発達障害のある子どもたちを中心に大学へ招き、学生たちが考えた活動で子どもたちに遊んでもらうという活動を行っています。私たちはこの活動を「おもいやり活動」と名付け、子どもたちが自分らしさを出し、楽しんでもらうための活動を年間 20～25 回、3 歳から 12 歳（場合によっては中学 2 年生まで）の子どもを対象とし定期的に実施しております。そのための準備として毎週月曜日にミーティングを行い、各活動を低学年・高学年の 2 対象に分け、年齢や季節のイベントに沿った遊びを考えています。このように、遊びに必要な遊具を学生が一から作り上げることで、遊具や遊び方の安全性を考えながら子どもたちに適切なものであるのかという意見交流を行うことができます。私たちは、これこそがこのサークルの活動の大きな意義であると考えています。教育学部のみならず、多くの学部の学生が所属するこのサークルでは、多くの視点から子どもや遊び道具、遊び方について考えることができます。活動に参加してくれる子どもたちは、年齢も違えばそれぞれの特性も違います。そのため、私たちはあらゆる可能性を視野に入れながら、「どんな子どもでも楽しむことができる遊び」を作り上げることに力を入れています。そのため、活動ではブース毎に教室を分けて使い、運動のブースを 4 個から 5 個設置したり、工作のブースを 1 個から 2 個用意したりすることで、子どもたちが「元気に楽しむ」部屋を用意するとともに、人混みや騒音が得意ではない子どもや運動をすることが苦手な子どもが楽しめる場所として「静かな部屋」を用意しています。多種多様な遊びを提供することで、子どもたちの得意なものに触れながらも、初めてのことに挑戦する機会を設け、そこから生まれる様々な気づきをこれからも大切にしていきたいと考えています。また、子どもたちと共に遊ぶという活動と並行して、「保護者部屋」を設置し、保護者さんとのお話し合いを行っています。このブースでは、外部顧問の先生と共に、時期に応じたテーマに対して話し合う活動をしており、「保護者」「教員」「学生」の 3 つの視点から、様々な問題や現状に対する考えを深めています。座学では知ることのできない「リアルな声」を聞くことができるため、「保護者部屋」におけるお話し合いも私たちのサークルでしか得ることのできない特別な経験であると考えています。

また、私たちはサークルとして、スマイリー単独での活動だけではなく、外部の企業とも協力をしながら子どもたちと関わる活動を行っています。例えば 2023 年 1 月 28 日には、NPO 法人ジョガボーラとの共同活動として、8 名の子供を東京都八王子市の FUN スポーツクラブに招き、「からだ遊び」をテーマにしたイベントを実施しました。具体的には、ボールを使った遊びや相手が近くにいるかどうか予想する気配切りゲーム、狼を見つけ出す狼ゲームなどを行い、子どもたちに楽しんでもら

うことができました。また、2023年3月30日には子供や保護者など子育て世代が利用する機能と多世代が幅広く利用することのできる機能をまとめた複合施設である「くにたち未来共創拠点矢川プラス」様にて、くにたち子どもの夢未来事業団職員・国立市子ども家庭部児童少年課職員の皆さんとプレオープンを行いました。乳幼児から中学生までをターゲットとして「おしごと体験ラボ」という学生達が考えた企画を行いました。具体的には、楽器を弾いたり音楽の楽しさを感じることで音楽の職業について触れてもらうミュージシャン体験やパソコンを活用しながら画像や映像を撮影したり編集したりする編集者体験、一から自分自身でスライムづくりを行う科学者体験など様々な職業体験ブースを作成し、結果的に約300名の参加者に来場していただき、用意をした各ブースどこも大盛況で終わることができました。また、11月末にはもう一度SMILYと矢川プラス様で同じようなイベントを行う企画を検討しており、すでに準備を開始しております。今後も矢川プラス様とSMILYで連携を継続していく予定です。

また、例年、大学近辺の地域のお祭りなどにも出店しております。今年度は8月24日に上柚木中学校で行われた上柚木祭りに参加させていただき、私たちはスーパーボールすくいを出店いたしました。子どもたちが少しでも喜んでくれるように、工夫を凝らし、さまざまな形や大きさのスーパーボールを用意しました。また当初の予定では、スーパーボールを水に流し、子どもたちにスーパーボールをすくってもらうという想定でしたが、水が流れる機械などを予算上用意することができなかったため、自分たちで試行錯誤し、スタッフ総出で水の流れを作りました。そのような試行錯誤をしたおかげもあってか、私たちが用意したスーパーボールの500セットはすべて売り切ることができ、大盛況で上柚木祭りを終わることができました。祭りの中で子どもたちが長い列を作って並んでくれたり何度も参加してくれたりしてくれる子どもたちも多く見受けられ、「スーパーボールすくい楽しかった」などの声を聞くことができ私たち自身も上柚木祭りに参加できたことを誇りに感じております。

2024年11月2日から11月4日には「第59回星友祭」に飲食模擬店を出店する予定です。昨年度はフランクフルトを販売し多くの参加者に楽しんでもらうことができました。今年度も焼き餃子の販売に向けて看板作りやチラシづくりなどの準備を進めています。

例年12月にはクリスマス会を開催していました。クリスマス会とは、子どもたちを大学に招待し、子どもたちに向け、大学生が劇を披露するというイベントです。劇はサークルのみんなで考えた、子どもたちにも伝わるキャッチーなものを題材として、独自の世界を3つほど展開し披露します。題材には実際に世に出ているキャラクターや漫画やアニメ等も使用していますが、使用前に著作権等の連絡を行い実施しています。学生たちはクリスマスの2~3ヶ月前から練習を行い、子どもたちの前で練習の成果を出せるよう準備を行っております。コロナ禍が過ぎた昨年度は、4年ぶりに完全対面型でこのイベントを開催しました。今年も対面での開催を予定しているため、学生達は力を入れて練習を行っています。

今年度の9月には、私達18代目に代替わりを行いました。先輩たちなどの伝統や経験したことを生かしながらも、コロナ禍を脱却した、新しい楽しみ方ができるよう尽力してまいります。今後も大学や地域と連携して子どもたちが楽しみながらも学校、家以外の「居場所」としてSMILYを存続していけるよう力を尽くしていきたいです。